

岩穴沢右俣遡行～左俣下降

国分 勉

- 山行年月日:2021年9月19日
- メンバー:杉崎圭洋、榮利文、
国分勉、窪田道男
- コースタイム:キッカケ沢出合 8:00～岩穴沢出合 8:25～二俣 8:50～p 1217 (13:00) 左俣下降～30m斜瀑出合 14:15～二俣～岩穴沢出合 16:00～キッカケ沢出合 16:30

ベースとしたキッカケ沢の出会いを8時に出発する。南沢本流の左岸にはおそらく10年前の大洪水によって流されたと思われる林道の跡が残っていて測量もされていてこの道を進む。岩穴沢の出会いには橋が流されずに残っていた。

岩穴沢に入り二俣までは大岩のゴーロとなって歩きにくい。50mの滑滝を越え右俣に入る。F1・5mナメ、F2・6mと難なく進む。F3は9m、滝の左より取り付き、中段をハーケンでランニングを取りシャワーをあびて右側に抜け枝をつかんで強引によじ登り落ち口に出る。しばらくゴーロが続きゴルジュとなるとF4・8m、F5・8mが2段になっている。このあたりが核心部と思われた。右岸の岩と草付きを高巻き、30mロープいっぱいトラバースで2段目の落ち口に出る。

さらにF6・8mを越すがロープが滝の下に流されるハプニングがあったが無事回収。F7・F8と小滝が続いた。しばらく行くとヌルヌルしたナメ床となり藪、

そして突然水が枯れた。稜線の鞍部に向かう急な水流跡を離れ左の比較的緩い尾根に取り付くと、さしたる藪もなく林を詰めあげP1217に着いた。13時。

山頂は大木交じりの林で回りの山が全く見えない。尾根の状態と太陽の角度から下降点を確認、左俣の沢を目指して広い林の尾根を下る。沢に入るとナメ交じりのヌルヌルした沢床で危ない。残置してあったテープで10m滝を懸垂、ゴーロとなり右岸から流れ落ちる30m滝を過ぎ、さらに二俣を過ぎると300m以上続くきれいなナメとなっていて快適、最後は急な30mのスライダーの滝を懸垂でくだる。続く10m滝も懸垂となった。あとは大岩のゴーロとなって16時30分快適なベースに着いた。

